



八幡小だより

北九州市立八幡小学校

校長 田頭 麗宏



緊急事態宣言に沿った慎重な行動をお願いします

学校生活はおおむね「これまで通り」です

感染拡大に伴い、福岡県にも「緊急事態宣言」が発令（2月7日までの予定）されました。昨年の春、全国一斉に出された時には休校中でした。今回、学校はこれまで通り開いたままで、教育活動に一部制限がなされる（体育科のボール運動で身体接触や密集の機会が多いゲームの禁止など）ものの、現状では学校生活に急激な変化を及ぼすものではないようです。もちろん、健康観察等にはいっそうの徹底を図ります。

今週は、朝の健康チェックリストの不備で確認の電話をする回数も少なく、ご家庭でご注意いただいているおかげと感謝しています。学校でも先日、栄養教諭が給食指導に関連づけながら感染対策について全校放送しました。子どもたちは水が冷たくなっているものの、手洗いを確実に行うなどがんばっています。



以前もお伝えしましたが、学校生活でのがんばりを生かすためにも、下校後や、休日の過ごし方は重要です。緊急事態宣言が出る以上、より慎重に行動せざるを得ない状況であることは間違いありません。学校でも指導しますが、ご家庭でも子どもの行動をしっかり把握し、不要不急の外出（とくに20時以降）を避けることはもとより、マスク着用や三密回避、手洗いや換気を徹底するなど、危機感をもって感染対策に取り組んでいただくようお願いいたします。また、週明けに体調不良であったり、ご家族がPCR検査を受けたりなど、登校できない状況や心配な状況の際には確実にご連絡ください。

読書を通して読解力を高めることは学力向上に欠かせません



以前、「ロボットは東大に入れるか」という研究プロジェクトに関わっていた方の講演内容が新聞に載っていました。記事によると、その研究は人工知能（AI）の本当の実力を試すもので、結果として読解力が試される東京大学合格は不可能と判断され、5年後に断念したとのことでした。「基礎的読解力が人生を左右する」とまで、その方は言われていました。

子どもの読解力については、10数年前の国際調査の結果から低下が懸念されていましたが、近年着実についてきていることが、さまざまな調査から明らかになっています。そして、その大きな要因のひとつとして「読書習慣の改善」が挙げられています。具体的には、「低年齢からの読み聞かせ体験の充実」「学校での読書活動の定着」などの効果だと言われています。

本校でも、読書活動が充実するような取り組みをしています。何と云っても、吹き抜けでガラス張りの明るい図書館は、本校の大きな特色の一つです。その図書館をさらに魅力的なものにするために、定期的に巡回訪問する学校図書館職員が中心になって図書館内の環境整備を行い、子どもたちが本を手に取りたくなるような工夫をしています。蔵書点検の際にはブックヘルパーの方にもご協力いただきました。子どもたち自身も、図書委員会が中心になって読書推進に取り組んでいます。また、今年度の「子ども読書の日」にはできませんでしたが、先日「きょうだい学級」交流の一つとして「上級生による下級生への読み聞かせ」をしている子どもたちの姿も見られました。



もちろん、読書は、読解力を高めるだけのものではありません。感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにするなど、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で不可欠な活動です。昨年から推奨されている「ステイホーム」の中で、子どもたちのゲーム漬けやスマホ漬けを懸念してきましたが、ぜひ「読書にひたる」時間をたっぷり取るように、ご家庭でも積極的なお声かけをお願いいたします。